

魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラム

目次

1. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムについて
2. 専門研修後の成果
3. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムの特徴
4. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムの研修方法
5. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムの評価方法
6. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラム連携施設
7. 専攻医受入数
8. 地域医療・地域連携への対応
9. 実際の研修予定
10. サブスペシャリティ領域との連続性について
11. 研修の休止・中断・プログラム移動、プログラム外研修の条件
12. 専門研修プログラムを支える体制
13. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について
14. 専攻医の採用と修了

1. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムについて

当院は新潟県魚沼地域の基幹病院で、地域に整形外科開業医が極端に少ないため、整形外科のプライマリーケアから3次救急までの幅広い疾患を研修できる大変ユニークな病院です。当院の整形外科の理念は、軽症から重症まで全ての運動器疾患・外傷に対し、高いレベルの診断・治療を行うことです。そして、当科を基幹施設として行う研修プログラムの理念は、「運動器疾患、外傷症例全般に対して、迅速にかつ的確な診断・治療・全身管理・社会復帰のサポートを行うための十分な能力を身につけること、かつ運動器疾患・外傷医療の進歩に寄与するための研究を行うための基礎的能力を身につけること」です。

この理念を達成するために、専門研修プログラムでは以下1)～4)の修得を重要視しています。

- 1)運動器疾患、外傷治療のプロフェッショナルとして必要な知識、技術を身につけます。紹介の制約をもたない整形外科初診外来や、ER型救急外来において多くの初期対応の習熟が可能です。また手術室や救急診療での経験、講義・カンファランス・勉強会を通じた知識の獲得、模擬骨などを用いたデモンストレーション勉強会においての手術テクニックの修得トレーニング、などが必要となります。
- 2)医師をはじめとするすべての医療スタッフを含めた診療チーム内でのリーダーシップ、コミュニケーション能力を高めます。多職種との合同カンファランスを定期的に行うことで、診療チーム全体の総合力を上げることを可能としています。
- 3)倫理的観点から客観的に見て、診療、研究の内容を正確に記載する能力を身につけます。また、幅広い社会常識や豊かな人間性を身につけ、患者さんを全人的に治療することを目標とします。
- 4)臨床の場で時に遭遇する、治療困難例や家族背景の貧困な症例などに対する対応力を身につけます。これには、院内の各職種と密な連携をとることや、先輩医師の指導下に安全性を担保しながら、困難な場面に対応する経験を積むことが重要です。

当院は、1次救急から3次救急まで対応する救急病院であるとともに、地域のプライマリーケアも担当しています。このために重症運動器疾患や多発外傷を含む重症外傷を多数受け入れ、救急科を始めとする他科と協力しながら、超急性期から急性期の高度治療を行っています。この治療にチーム治療の一員として参加していただくことで、救命を目指しながら回復後の機能回復を最大限にするための治療を行うことを学んでいただきます。

周囲には有名な登山ルートやスキーリゾートがあり、春から秋にかけては山菜採り、登山等に関連する外傷、冬期にはスキースノーボード外傷症例が多数入院し診療を行っています。四肢・骨盤・脊椎の脱臼・骨折症例や膝・肘靭帯の靭帯損傷症例も多数経験可能です。

精神科病棟を持つことから精神科疾患を持つ症例の自殺企図による多発外傷が多いのも当院の特徴であり、精神科医と密な連携をとりつつ難治症例の解決策を研修可能です。

また当院では、重症から軽症までの多数の手の外科、股関節外科、膝関節外科、脊椎脊髄外科、スポーツ外科、骨軟部腫瘍治療、リハビリテーション治療を行っており、十分な経験を積むことが可能です。日々の研修の際に、遅滞なく指導を受けることが重要ですので、検討会、回診を連日行っています。魚沼基幹病院に比較的症例が少ない関節リウマチ、小児整形外科については新潟大学医歯学総合病院や長岡赤十字病院などの関連施設にて、研修を行うことが

できます。

3年9か月間の研修期間中、多発外傷や重症外傷、重度併存症合併患者の全身的治療、管理についても学んでもらいますが、プライマリーケアから重症外傷までの研修により、整形外科専門医に求められる全ての要素を身に着けた医師の育成を目指しています。

当プログラムを構成する病院名と各施設の指導医数、年間新患数、年間手術件数を表に示しています。当プログラムに参加する病院の指導医数は130名、合計年間新患数は55,466例、手術数は24,642件(2023年実績)であり、多数の指導医からの確かな指導を受けながら、診察や手術の執刀や助手などの多くの経験を積むことが可能です。特に外傷に関しては全国有数の症例数を経験可能です。

当プログラム参加施設の2023年実績

	指導医数	年間新患数	手術数								
			脊椎背髄	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	合計
魚沼基幹病院	5	2,932	205	78	122	807	7	33	22	78	1,352
新潟大学医歯学総合病院	18	922	262	122	139	107	46	17	29	177	899
帝京大学医学部附属病院	24	3,399	217	176	407	915	4	182	15	125	2,041
新潟市民病院	5	1,727	289	172	351	375	10	7	31	6	1,241
長岡赤十字病院	8	2,647	300	42	182	875	90	0	62	43	1,594
長岡中央総合病院	6	3,376	324	473	221	438	2	106	3	8	1,575
新潟県立中央病院	5	1,702	97	370	400	135	9	47	48	19	1,125
柏崎総合医療センター	2	1,659	43	191	115	369	0	40	0	38	796
新潟県立十日町病院	1	3,236	0	162	0	269	0	5	26	7	469
新潟県立がんセンター新潟病院	3	1,219	0	3	2	8	0	0	0	258	271
立川総合病院	3	1,951	0	198	322	474	3	39	37	21	1,094
新潟臨港病院	2	920	0	75	55	262	0	0	0	15	407
済生会新潟病院	5	1,292	0	255	191	395	4	56	12	2	915
新潟医療センター	4	1,374	0	101	293	18	0	291	28	6	737
新潟中央病院	8	4,596	874	423	490	720	13	82	30	17	2,649
新潟県立新発田病院	5.92	2,916	199	43	247	517	0	21	0	11	1,038
佐渡総合病院	2	8,379	20	360	83	466	22	28	2	21	1,002
新潟リハビリテーション病院	2	3,474	0	44	84	126	0	66	1	7	328
水戸済生会総合病院	4	2,708	248	166	180	629	6	25	37	13	1,304
鶴岡市立荘内病院	2	1,555	1	399	169	382	0	27	46	11	1,035
済生会新潟県中央基幹病院	3	66	1	5	10	25	0	1	0	1	43
富永草野病院	9	1,487	384	729	366	546	1	110	7	31	2,174
新潟万代病院	2	1,143	0	6	341	67	0	1	0	3	418
あがの市民病院	1.5	786	0	17	13	97	0	2	0	6	135
合計	130.42	55,466	3,464	4,610	4,783	9,022	217	1,186	436	924	24,642

医療機関	指導可能な研修領域										指導医数
	脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児整形	腫瘍	リハビリ	地域医療	
魚沼基幹病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6
新潟大学医歯学総合病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	18
帝京大学医学部附属病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●		24
新潟市民病院	●	●	●	●	●	●			●	●	5
長岡赤十字病院	●	●	●	●	●		●		●	●	8
長岡中央総合病院	●	●	●	●		●			●	●	5
新潟県立中央病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6
柏崎総合医療センター		●	●	●					●	●	1
新潟県立十日町病院		●		●						●	1
新潟県立がんセンター新潟病院		●	●	●				●	●		3
立川総合病院		●	●	●	●	●			●	●	3
新潟臨港病院		●	●	●		●			●	●	2
済生会新潟病院		●	●	●		●	●		●		5
新潟医療センター			●	●		●			●		4
新潟中央病院	●	●	●	●		●	●		●		8
新潟県立新発田病院	●	●	●	●		●		●	●		4
佐渡総合病院		●		●						●	1
新潟リハビリテーション病院			●	●		●			●	●	2
水戸済生会総合病院	●	●	●	●	●	●	●		●	●	5
鶴岡市立荘内病院	●	●	●	●		●			●	●	2
済生会新潟県央基幹病院		●	●	●		●			●		3
富永草野病院	●	●	●	●	●	●	●		●	●	9
新潟万代病院			●	●					●		2
あがの市民病院			●	●		●					2

指導医と担当指導分野一覧

施設名	指導医名	分野 1	分野 2	分野 3
魚沼基幹病院	生越 章	腫瘍	小児整形	地域医療
魚沼基幹病院	平野 徹	脊椎	外傷	リハビリ
魚沼基幹病院	白旗 正幸	上肢・手	外傷	リウマチ
魚沼基幹病院	目良 恒	下肢	リハビリ	地域医療
魚沼基幹病院	上村 一成	上肢・手	外傷	
魚沼基幹病院	牧野 達夫	脊椎	外傷	地域医療
新潟大学医歯学総合病院	川島 寛之	腫瘍	上肢・手	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	近藤 直樹	リウマチ	上肢・手	下肢

新潟大学医歯学総合病院	村上 玲子	小児	下肢	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	有泉 高志	腫瘍	下肢	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	今井 教雄	下肢	外傷	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	大橋 正幸	脊椎		
新潟大学医歯学総合病院	望月 友晴	下肢	上肢・手	スポーツ
新潟大学医歯学総合病院	依田 拓也	上肢・手	下肢	外傷
新潟大学医歯学総合病院	田仕 英希	脊椎		
新潟大学医歯学総合病院	古賀 寛	下肢	外傷	スポーツ
新潟大学医歯学総合病院	堀米 洋二	下肢	外傷	地域医療
新潟大学医歯学総合病院	渡邊 要	下肢	外傷	
新潟大学医歯学総合病院	木村 慎二			
新潟大学医歯学総合病院	渋谷 洋平	脊椎	外傷	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	湊 圭太郎	脊椎	外傷	
新潟大学医歯学総合病院	高木 繁	下肢	外傷	スポーツ
新潟大学医歯学総合病院	鈴木 宜瑛	上肢・手	小児	地域医療
新潟大学医歯学総合病院	久保田 美緒	脊椎	リハ	地域医療
新潟市民病院	瀬川 博之	下肢	リウマチ	スポーツ
新潟市民病院	山下 晴義	上肢・手	外傷	リハビリ
新潟市民病院	庄司 寛和	脊椎	外傷	リハビリ
新潟市民病院	石川 裕也	脊椎	リウマチ	地域医療
新潟市民病院	酒井 芳倫	下肢	外傷	
長岡赤十字病院	羽生 忠正	リウマチ	上肢・手	下肢
長岡赤十字病院	井村 健二	下肢	外傷	リハビリ
長岡赤十字病院	三浦 一人	脊椎	外傷	リウマチ
長岡赤十字病院	森田 修	脊椎	外傷	リウマチ
長岡赤十字病院	根津 貴広	リウマチ	上肢・手	下肢
長岡赤十字病院	川瀬 大央	上肢・手	外傷	下肢
長岡赤十字病院	大溪 一孝			
長岡中央総合病院	高橋 一雄	脊椎	外傷	地域医療
長岡中央総合病院	矢尻 洋一	脊椎	リハビリ	地域医療
長岡中央総合病院	善財 慶治	上肢・手	外傷	リハビリ
長岡中央総合病院	浦川 貴朗	脊椎	外傷	リハビリ
長岡中央総合病院	村山 敬之	下肢	外傷	スポーツ
新潟県立中央病院	荒井 勝光	リウマチ	上肢・手	下肢
新潟県立中央病院	小泉 雅裕	上肢・手	外傷	小児
新潟県立中央病院	保坂 登	脊椎	外傷	リハビリ
新潟県立中央病院	藤川 隆太	脊椎	外傷	腫瘍
新潟県立中央病院	菊池 廉	脊椎	外傷	地域医療
新潟県立中央病院	富山 康行	下肢	外傷	スポーツ
柏崎総合医療センター	高野 岳人	上肢・手	外傷	下肢
新潟県立十日町病院	倉石 竜也	上肢・手	外傷	地域医療
新潟県立がんセンター新潟病院	畠野 宏史	腫瘍	下肢	外傷
新潟県立がんセンター新潟病院	山岸 哲郎	腫瘍	上肢・手	リハビリ
新潟県立がんセンター新潟病院	柳橋 和仁	上肢・手	下肢	リハビリ
立川総合病院	二宮 宗重	上肢・手	外傷	スポーツ
立川総合病院	奥村 剛	上肢・手	外傷	リウマチ
立川総合病院	鈴木 勇人	下肢	外傷	小児
新潟臨港病院	佐藤 朗	下肢	外傷	地域医療
新潟臨港病院	湊 泉	下肢	外傷	地域医療

済生会新潟病院	塩崎 浩之	上肢・手	スポーツ	リハビリ
済生会新潟病院	山際 浩史	下肢	外傷	スポーツ
済生会新潟病院	北原 洋	下肢	外傷	小児整形
済生会新潟病院	渡邊 牧人	上肢・手	外傷	リハビリ
済生会新潟病院	土方 啓生			
新潟医療センター	佐藤 卓	下肢	スポーツ	リハビリ
新潟医療センター	勝見 亮太	上肢	リハビリ	地域医療
新潟医療センター	添野 竜也	下肢	スポーツ	リハビリ
新潟医療センター	山中 佳代			
新潟中央病院	柴田 実	上肢・手	外傷	小児整形
新潟中央病院	山崎 昭義	脊椎	外傷	地域医療
新潟中央病院	松枝 宗則	下肢	スポーツ	リウマチ
新潟中央病院	勝見 敬一	脊椎	外傷	小児
新潟中央病院	井上 旬二	下肢	リハビリ	地域医療
新潟中央病院	早川 敬	上肢・手	外傷	スポーツ
新潟中央病院	畠野 義郎	上肢・手	外傷	スポーツ
新潟中央病院	溝内 龍樹	脊椎	外傷	リハビリ
新潟県立新発田病院	三輪 仁	上肢・手	外傷	スポーツ
新潟県立新発田病院	佐藤 剛	脊椎	外傷	腫瘍
新潟県立新発田病院	須田 健	下肢	リハビリ	地域医療
新潟県立新発田病院	穂苅 翔	下肢	外傷	スポーツ
佐渡総合病院	生沼 武男	上肢・手	外傷	地域医療
佐渡総合病院	高橋 勇樹			
佐渡総合病院	松尾 裕次郎			
新潟リハビリテーション病院	山本 智章	リハビリ	スポーツ	地域医療
新潟リハビリテーション病院	菊池 達哉			
水戸済生会総合病院	生沢 義輔	下肢	リウマチ	スポーツ
水戸済生会総合病院	秋山 義人	上肢・手	外傷	小児
水戸済生会総合病院	島田 勇人			
水戸済生会総合病院	鈴木 真純			
水戸済生会総合病院	野村 真船	脊椎	リハビリ	地域医療
鶴岡市立荘内病院	後藤 真一	上肢・手	外傷	地域医療
鶴岡市立荘内病院	土屋 潤平	上肢・手	下肢	リハビリ
済生会新潟県央基幹病院	谷藤 理	上肢	スポーツ	リハビリ
済生会新潟県央基幹病院	杉田 大輔	下肢	外傷	
済生会新潟県央基幹病院	普久原 朝海	外傷	下肢	
富永草野病院	長谷川 淳一	上肢・手	外傷	地域医療
富永草野病院	有海 明央	下肢	スポーツ	リハビリ
富永草野病院	伊藤 知之	下肢	外傷	リハビリ
富永草野病院	金谷 文則	上肢・手	リハビリ	小児整形
富永草野病院	草野 望	上肢・手	外傷	リハビリ
富永草野病院	澤上 公彦	脊椎	外傷	スポーツ
富永草野病院	鈴木 禎宏	下肢	スポーツ	
富永草野病院	遠山 知香子			
富永草野病院	仲村 一郎	脊椎		
新潟万代病院	堂前 洋一郎	下肢	外傷	
新潟万代病院	宮坂 大	下肢	外傷	リハビリ
あがの市民病院	藤井 俊英	下肢	外傷	スポーツ
あがの市民病院	渡邊 秀雄			

2. 専門研修後の成果

専攻医は当プログラムによる研修により、以下の 8 項目を備えた整形外科専門医となることが期待されます。

- 1) 運動器疾患、外傷について適切な診断を下し、標準的治療を行うことができる。
- 2) 運動器疾患、外傷治療の際に経験する合併症に対し適切な治療、管理を行うことができる。
- 3) 運動器疾患以外の併存症について評価し、各科専門医と協力し全身管理ができる。
- 4) 適切なリハビリテーション処方、装具処方ならびに回復期病院へ適切な引き継ぎができる。
- 5) 医の倫理に配慮した判断、行動ができる。
- 6) 患者や医療関係者と適切にコミュニケーションをとることで治療をスムーズに行うことができる。また、チーム医療のリーダーとして、チーム全体の総合力を上げ、医療の質を向上するための行動ができる。
- 7) 診療記録を的確に記載できる。
- 8) 整形外科の進歩に合わせた生涯学習を行う姿勢を修得し、また後輩医師を指導する能力を持ち、さらに整形外科の進歩に寄与する研究を実践するための基盤を獲得する。

3. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムの特徴

- 1) 多数の救急搬送患者を受け入れている魚沼基幹病院(2023年度の救急車搬入3,024件)で研修を行うことで、どのような運動器疾患、外傷の急性期治療についても対応可能となります。救急科との連携が良好なことも大きな特徴です。
- 2) 魚沼基幹病院には手の外科、股関節外科、膝関節外科、脊椎脊髄外科、腫瘍、外傷治療、スポーツ医学、リハビリテーションの専門医が、また関連施設の新潟大学医歯学総合病院には、リウマチ、小児整形、腫瘍、リハビリテーションの専門医が指導医として勤務しており、最新の治療を経験することが可能です。
- 3) 新潟大学と連携したプログラムのため、大学において開催される検討会や研究会に参加する機会が多く得られ、最新知識を得ることが可能です。
- 4) プログラムに参加する各病院の症例数が豊富なため、研修中に執刀可能な手術件数が多いです(年間 120 件以上、3 年 9 か月間で 500 件を目標とする)。
- 5) 整形外科専攻医向けに、模擬骨を用いた骨折手術トレーニング、ギプス装着実技の講習会を開催し、専門医資格取得に向けて各指導医(院外医師を含む)からの集中講義を開催しています。
- 6) 新潟県医師養成修学資金の貸与を受けている修学生では、卒業後一般コースで 6 年、重点コースでは 9 年の新潟県内かつ新潟市外の病院での勤務が必要となりますが、当プログラムでは長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、県立中央病院、柏崎総合医療センター、県立十日町病院などが連携施設となっており、魚沼基幹病院 1 年、新潟大学医歯学総合病院 6 か月から 1 年以外の期間については新潟市外での勤務も可能です。

魚沼基幹病院整形外科週間予定

	月	火	水	木	金
朝 8～9時	検討会	検討会	検討会 勉強会	検討会 抄読会	検討会
午前	手術・外来	手術・外来	手術・外来	手術・外来	手術・外来
午後	リハビリ検討会 手術	手術 検査	手術 検査 リハビリ検討会	手術 検査	手術

4. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムの研修方法

1) 臨床現場での学習

整形外科専門研修プログラム整備基準附属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、魚沼基幹病院ならびに連携施設において研修を行います。当プログラムにおける専門知識習得の年次ごとの到達目標と専門技能修得の年次ごとの到達目標は、同上解説資料1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能修得の年次毎の到達目標」に準じるものとします。

実際の研修は、1 か月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを 10 の研修領域に分割し、当院ならびに連携施設において各分野の定められた単位数以上を研修し、3 年 9 か月間で 45 単位を修得します。

2) 臨床現場以外の学習

上記した様に、模擬骨を用いた骨折手術の実技トレーニング、ギプス装着講習、指導医による講義を開催しています。日本整形外科学会学術集会時の教育研修講演、関連学会、研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修講演、などにおいて運動器疾患、外傷の標準的治療や、先進的な研究成果などを学習します。魚沼基幹病院が開催する、年2回の研究会や新潟大学が開催する年5回の整形外科研究会においては、多領域の大学教授クラスの講演を聴くことが可能です。また、魚沼基幹病院や新潟大学が主催する、医療倫理、医療安全、感染予防、統計学、他分野の研修会に参加することで、幅広い知識を獲得可能です。AO コース、日本骨折治療学会主催の講習会への参加も推奨しています。

魚沼基幹病院には院内図書室が整備されており、The Journal of Bone and Joint Surgery, Spine はじめ多くの雑誌がオンラインで自分のコンピューターから購読可能です。稀な文献に関しては大学事務に取り寄せてもらうことも可能です。また メディカルオンライン、UpToDate を閲覧可能で最新の医学情報が入手可能です。

3) プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

4) 学術活動に関する具体的目標とその指導体制(専攻医1人あたりの学会発表、論文等)

専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

5) コアコンピテンシーの研修計画(医療倫理、医療安全、院内感染対策等)

整形外科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)には、専門的知識・技能だけでなく、医師

としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力(コアコンピテンシー)が身につくことを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力(コアコンピテンシー)を早期に獲得できるよう指導します。

魚沼基幹病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

5. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムの評価方法

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価、指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後に、カリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

総括的評価

1) 評価項目・基準と時期

専門研修最終年度の12月に研修期間中の研修目標達成度評価報告と、経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを修得したかどうかを判定します。

2) 評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行います。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

3) 修了判定のプロセス

研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて専門研修修了判定を行います。判定基準は以下のi～vの全てを満たしていることとなります。

- i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること(別添の専攻医獲得単位報告書を提出)。
- ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- iii. 臨床医として十分な適正が備わっていること。
- iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより30単位を修得していること。
- v. 1回以上の学会発表、筆頭著者として1編以上の論文があること。

4) 他職種評価

専攻医に対する評価判定に、他職種(看護師、技師等)の医療従事者の意見も加えて、医師としての全体的な評価を行い専攻医評価表に記入します。

6. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラム連携施設

魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムの施設群を構成する連携病院は、23施設で、専門研修連携施設の認定基準を満たしています。新潟県はもちろんのこと、東京の帝京大学医学部附属病院とも連携しており、整形外科すべての分野の高度な研修をまんべんなく受けることができます。新潟県医師養成修学資金の貸与を受けている修学生では新潟県内かつ新潟市外の病院での勤務が必要となりますが、当プログラムでは魚沼基幹病院1年、新潟大学医歯

学総合病院 6 か月から1 年以外の期間については長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、県立中央病院、柏崎総合医療センター、県立十日町病院など、連携している施設での研修も可能です。

以下は特徴ある連携施設の紹介です。

【新潟大学医歯学総合病院】

大正6年に本邦第4番目の整形外科として開講した伝統ある教室です。専門グループ(腫瘍、脊椎、股関節、膝・肩・スポーツ、関節リウマチ、手外科、外傷、小児)に分かれ、互いに連携をとりつつ高い専門性を持って診療を行っています。当院では全ての分野にわたる初期治療から最先端医療までの幅広い知識を学ぶことができます。本プログラム修了後は大学院進学や国内外留学、サブスペシャリティ研修等に進むことが可能です。

【帝京大学医学部附属病院】

帝京大学整形外科では、整形外科全般についての知識・技術のみならず、専門分野についてのより深い知識や技術を涵養することを目指しています。帝京大学整形外科において脊椎外科、関節外科、スポーツ医学、手外科、外傷、腫瘍、小児などの専門性の高い診療を早くから経験することで、整形外科専門医取得後のサブスペシャリティ領域の研修へと継続していくことができます。また帝京大学医学部附属病院における研修では、サブスペシャリティに対する専門性の高い研修や大学院進学に備えた臨床研究および基礎研究への深い関わりを持つことができます。ほぼすべての領域において専門性の高い治療を行っているのが特徴であり、サブスペシャリティの選択肢が幅広くあります。さらに外傷センターと連携しており、3次救急を含む高エネルギー外傷についての専門性の高い治療も学ぶことができます。

【新潟市民病院】

新潟地区の拠点病院としてほぼ全ての整形外科疾患治療を行い、特に重症、最重症例の治療を担当し、新潟市および近隣における3次救急を担い、脊椎脊髄損傷、骨盤骨折、開放骨折などの重度の外傷や緊急性の高い、重症度の高い、また合併症を持つ運動器疾患の最後の砦として、救命救急科など他科と協力し治療にあたっています。

全ての運動器疾患・外傷に対し高いレベルの急性期治療を行うことを理念とし、救命救急センターを併設した当院には重症外傷や重症運動器疾患が多数受診されます。救命科を始めとする他科と協力し、救命を目指しながら回復後に最大限の機能回復が得られる様な治療を行っています。脊椎手術や人工関節手術、手の外科手術にも力を入れています。

整形外科医は 11名で内9名が日本整形外科学会専門医で、指導医は5名です。外傷を含め手外科3名、脊椎外科3名、関節外科医3名、専攻医2名で診療を行っております。多発外傷や重症例の治療を多く経験することが可能で、専攻医には多くの症例を経験してもらうために、上級医の指導の下に主治医及び執刀医となってもらう方針です。

【長岡赤十字病院】

新潟県中越地区での三次救急を含めた中核病院であり、県内で稼働している2機のドクターヘリの拠点の一つでもあることから救急科とともに重度外傷を含めた様々な外傷・急性期治療を経験できます。重度外傷だけではなく一般的な一次・二次外傷にも幅広く対応しており外傷を含む急性期疾患に関しては偏りなくほぼすべて経験することが可能です。それらに対応する各分野に指導医が常駐しているので研修として初歩的な外傷から段階的に経験を積

むことができます。

急性期疾患のみではなく脊椎・リウマチ関節・手外科の各専門医が変性疾患にも積極的に手術治療を行っており県内有数の手術件数となっています。初期研修としてほぼすべての領域に携わることが可能であり整形外科医としての基礎を築くための最適な環境を提供することができると思います。

【長岡中央総合病院】

長岡市及び新潟県中越地区の中核病院として外傷(スポーツ外傷を含め)、変性疾患等幅広い整形外科疾患に対応しています。整形外科医は11名で内9名が日本整形外科学会専門医で、指導医は6名です。外傷を含め手外科2名、脊椎外科5名、膝・肩関節2名、後期専攻医2名で診療を行っております。一般外傷はもちろんですが、手の外科専門医、脊椎脊髄外科指導医、公認スポーツドクターのもとで専門分野の研修が可能です。基本的には研修医に積極的に執刀医となってもらう方針です。多様な症例と多くの手術症例がありバランスのとれた研修ができます。また当院は内科はじめ他科も充実しており、合併症をもった症例にも対応でき、幅の広い研修が可能です。

【新潟県立中央病院】

救急救命センターを併設し上越地域の3次救急を行っています。重傷患者の全身管理は救急科Drと連携して行っています。

多くの外傷治療を経験できますし、各専門分野に精通した整形外科医が常勤し、整形外科のほぼ全領域にわたり研修が可能です。

院内連携と地域連携がよいことも特徴のひとつです。

例えば、大腿骨近位部骨折は年間220例ほどですが、受診後48時間以内に84%の症例で手術治療が行われ、3週間以内に回復期病院へ転院しています(2022年)。

2012年から院内と地域で取り組んでいる2次骨折予防により2次骨折発生率は着実に低下しています。

【柏崎総合医療センター】

整形外科常勤医4名、うち専門医2名。非常勤専門医2名で診療を行っております。非常勤専門医はそれぞれ大学病院で腫瘍、脊椎脊髄の指導をしている医師(川島教授、大橋准教授)であり、専門性の高い症例の経験も可能です。柏崎医療圏で唯一整形外科常勤医がいる地域中核病院であるため、圏域内の整形外傷、整形疾患はほとんどが当院に集まり、非常に豊富でバランス良く多岐にわたる症例を経験できます。年間手術件数は外傷を中心に約1000件で、医師一人あたりの手術件数は県内トップクラスですが、コメディカルとのチームワーク、医療クランクへのタスクシフティングで、多忙になりすぎることなく効率的に質の良い医療を提供しています。多くの標榜科がそろった総合病院で、他科や他職種、多職種との連携が取れている働きやすい病院です。

【新潟県立十日町病院】

令和3年9月に開院したばかりのきれいな施設が魅力です。4名の整形外科常勤医が在籍し新潟大学や魚沼基幹病院からの派遣を受けており、多様な症例と手術経験を積むチャンスです。完全紹介制、クランクへのタスクシフト、第2当直制(整形外科の当直は23:00まで)、医局内DX化など、医師の負担軽減を目指しています。医局内の垣根は低く、内科は総合診療を意識し、高齢者は整形外科疾患が落ち着いた時点で内科転科できるシステムとなっています。早くから導入している大腿骨近位部骨折リエゾンサービスは国際骨粗鬆症財団からNew FLSとして認められMap of Best Practiceに掲載されました。また令和6年5月からは手外科専門医による難治

性疼痛外来も開設しました。きもの祭り、雪まつり、大地の芸術祭など年間を通じて楽しめるイベントが盛んです。地域医療への貢献を通じて自己成長を促進し、充実したライフスタイルを享受できるようお手伝いします。

【県立がんセンター新潟病院】

当院の整形外科は手術の大半が骨軟部腫瘍で、良性から悪性まで腫瘍の診断から治療（手術や化学療法、放射線療法）、術後のリハビリテーションに対して研修期間中に必ず症例経験ができます。また、がんの骨転移も多く、診断と骨折・麻痺・疼痛に対する対応、がんのリハビリテーションまで、学ぶことができます。

【新潟臨港病院】

新潟臨港病院整形外科の3つの特徴

1. 下肢外傷の治療では、日本骨折治療学会評議員でもある専門医が指導します。
2. 股関節では当院も開発に関与した3次元術前計画ソフトとジグを用い正確な設置を目標に手術をしております。前日本股関節学会評議員の専門医が指導します。
3. グループ病院である新潟万代病院（股関節手術に特化して担当）と一体となり、多様な環境での充実した研修を提供します。

子育て支援のため保育所を併設しています。子育て中の医師も安心して研修が可能です。

【済生会新潟病院】

新潟市内の新たな救急拠点病院として選定され、多くの救急車を受け入れて6人の専門医と充実した麻酔科・手術室環境や各診療科との連携のもとで、四肢・関節の外傷・疾患を多数担当することが可能です。2023年度は大腿骨近位部骨折の手術は200例を超えています。将来の希望として関節外科を専門としていきたい方には、肩・膝・股関節・足の外科・手の外科それぞれのエキスパートと共に豊富な症例を経験し、3D画像を用いた術前計画による人工関節手術や関節鏡を駆使した低侵襲治療の専門的研修も可能です。

病院在籍の初期研修医もほぼ通年でローテーションして研修するため、「初期研修医の指導」も体験することにより、自らの知識と技術をさらに高めることもできます。

働き方改革も積極的に進めており、できるだけ日当直後の代休取得を行っております。保育施設も完備しており、小さなお子様がいても安心です。

【新潟医療センター】

- ・整形外科常勤医6名、うち専門医5名。非常勤専門医2名の体制です。
- ・スポーツ疾患では充実したリハビリ部門と協力し新潟県内最高レベルのスポーツ障害治療を行っています。
- ・人工膝関節置換術に対しては世界的な評価を受けている独自開発のIT技術によって正確な手術を行っています。
- ・生体力学研究の拠点となっており、これまで多くの専攻医が当院で行った研究で学位を取得しています。
- ・一般外傷の受け入れも積極的に行っており、新潟市における整形外科二次救急の中核を担っています。
- ・保育所が併設されているため、女性医師も安心して研修が可能です。

【新潟中央病院】

整形外科指導医は計8名おり、指導可能な研修はリウマチ・腫瘍以外の全7領域です。急性期(一次,二次救急)から慢性期へと各領域にスペシャリストが複数おり、しかも整形外科だけで年間手術件数は2,649件(2023年度: 上肢 885件, 下肢 890件, 脊椎 874件)と非常に多いため、幅広い、しかも深みのある経験ができます。手術室は7部屋(うちクリーンルーム1部屋)あり、平日の朝から夕方までほぼフル回転で稼働しております。リハビリテーションのスタッフは30名以上おります。国内外の学会活動も盛んに行っています。院内保育も完備しており、安心して研修に集中できます。

整形外科専門医12名が在職し、脊椎, 手外科, 関節外科, 外傷, 骨粗鬆症, リハビリを分担しています。研修医は救急・外傷患者の診療が主になりますが、若い方の新しい発想, 先端医療の導入に対してベテラン医師も柔軟に対応しております。

【新潟県立新発田病院】

当院は救命救急センターを併設し県北地域の広域基幹病院として24時間体制で救急医療に対応しております。整形外科医10名が常勤し、うち7名が日本整形外科学会専門医です。大腿骨近位部骨折は年間200~250例に達し、他の外傷も非常に多いことから、指導医のもと専攻医が執刀する機会に恵まれております。ほかにも、脊椎・手・股関節・膝関節・スポーツ傷害の症例に対しても専門医による指導を受けることができます。

【新潟リハビリテーション病院】

当院は新潟市北区にある急性期、回復期病床を有するケアミックスの一般病院です。近隣の整形外科救急に対応するとともにスポーツ整形外科に力を入れています。新潟医療福祉大学や高校のトップアスリートの受診も多く、新潟大学整形外科教室の膝スポーツ班と連携した診療を行っています。膝人工関節ロボット支援手術や骨折リエゾンサービスなど特色ある医療を積極的に展開しています。

【水戸済生会総合病院】

水戸済生会総合病院の5つの特徴

1. 茨城県のドクヘリ基地でありかつ水戸市のドクターカーが常駐するため、重度外傷(多発骨折、開放骨折、頸髄損傷など)が多く、症例に事欠かない。
2. 麻酔科医が当直体制にあり、緊急手術にもきわめてスムーズに対応できる。
3. 地域医療支援病院であるため変性疾患も万遍なく紹介され、ほとんどが併存症をもつ患者さんのため、応用力、判断力がつく。
4. 茨城県立こども病院を併設しており、筑波大学の小児整形外科担当医師も一緒に診療チームになっているため、新潟では経験できない症例、手術の経験が出来る
5. 県庁所在地のため研修会も多く、また東京などでの学会にも行きやすい。

【鶴岡市立荘内病院】

鶴岡市をはじめとする庄内地区の基幹病院であり、二次救急を担っています。整形外科医6名が常勤し、大腿骨近位部骨折年間約250件をはじめ、一般外傷の治療を多数行っています。特殊な治療は少ないですが、外傷だけでなく、各専門領域の中でも専攻医に必要な頻度の高い疾患を多数経験し、「習うより慣れよ」というように体で覚えていくには最適です

【富永草野病院】

三条・燕・加茂市を中心とする県央地区の整形外科疾患を専門的な技術を持って治療しています。整形外科病床は100床で、整形外科専門医10名と形成外科専門医1名で対応しており、リウマチ、腫瘍、小児整形を含め全分野の研修に加えて、脊椎脊髄病と手外科の専門研修

も可能です。さらに、リハビリテーションとリウマチの研修施設となっています。2023年度の手術件数は2174、主なものは脊椎384、上肢・手729、下肢366、外傷546、リウマチ1、スポーツ110、小児7、腫瘍31です。2024年は一層の手術数増加が予想されています。外来は整形外科一般の他に手外科、脊椎脊髄病、股関節、膝関節、肩関節、スポーツの専門外来を開設しており全ての分野において十分な研修が可能です。学会参加の援助も充実しており、元気な整形外科研修医を歓迎します。

【新潟万代病院】

関節再建センターのある股関節を専門とした病院です。3名の股関節外科医がおり、手術は人工股関節置換術(THA)を主として、若年の寛骨臼形成不全股に対し、寛骨臼回転骨切り術も行っております。THAは年間300件を超えており、本年度からはロボット手術も開始いたします。股関節の患者様は大変多く、股関節について深く学べると思います。ロボット導入に伴い膝関節においても大学と協力して手術を開始する予定です。また外傷については少ない中でも、特に大腿骨近位部骨折がもっとも多く、股関節専門医の指導を受けることが可能です

【あがの市民病院】

2019年4月から『骨関節疾患センター』を開設し、外来、入院、手術などの診療・治療を行っています。治療だけではなく、介護が必要な状況を作らないよう骨粗鬆症の治療や転倒を防ぐリハビリなど予防医学にも力を入れ、健康寿命日本一を目指す阿賀野市と協力して取り組んでいます。

7. 専攻医受入数

専攻医1人あたりが経験可能な症例数を確保するため、当プログラムでは1年あたり2名、4年間で合計8名を受入数とします。

8. 地域医療・地域連携への対応

より地域に密着した医療の実践のため、十日町病院または柏崎総合医療センター等において、最低3か月(3単位)勤務することとします。その際には地域病院における、救急診療体制や病診連携や病病連携などを経験していただきます。

当プログラムに含まれる地域医療研修病院には、経験の豊富な指導医が在職し、また定期的に新潟大学からの指導医が診療を行っているため、適切な指導を受けることが可能です。

9. 実際の研修予定

一般コースである魚沼基幹病院集中型コースでは、3年9か月間の研修期間中、基幹施設で約2年6か月間、連携施設において約1年3か月間の研修を行う予定です。研修1年目、2年目には基本的診察能力、基本的知識と技能の修得を目標とします。3年目の1年間は連携施設である新潟大学医歯学総合病院にて、実際の臨床の場において、自己の力で診断し標準的治療を行える能力の習得を目指します。また、学会への参加や発表、そして後輩の研修医の指導などを通じて知識の整理に努めます。4年目には、臨床チームのリーダーとして治療を行

うことや、地域医療研修、サブスペシャリティ研修、研究の発表能力の向上に努めます。

また新潟県医師養成修学資金貸与修学生については、卒業後一般コースでは 6 年間、重点コースでは 9 年間の新潟市外の病院勤務が必要となりますが、当プログラム地域枠コースでは基幹施設で 1 年から 1 年半の研修を行い、長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、県立中央病院、柏崎総合医療センター、県立十日町病院等の地域中核病院での研修が行えます。

各学年において年間 120 件以上 3 年 9 か月間で 500 件以上の手術を執刀し、学会研究会で年 1 回以上発表、そして 3 年 9 か月間で最低 1 編以上の論文を作成することを目標とします。

魚沼基幹病院集中型コース年次別研修例

年次		
1 年目	魚沼基幹病院にて研修	
2 年目	魚沼基幹病院にて研修	連携施設にて研修
3 年目	連携施設にて研修	新潟大学病院にて研修
4 年目	十日町病院	魚沼基幹病院に戻り研修, 専門医試験準備

3 年目後半は新潟大学医歯学総合病院における研修の予定です。

地域枠コース年次別研修例

年次		
1 年目	地域基幹病院 A にて研修	
2 年目	地域基幹病院 B にて研修	
3 年目	新潟大学病院にて研修	魚沼基幹病院にて研修
4 年目	魚沼基幹病院にて研修, 専門医試験準備	

3 年目前半は新潟大学医歯学総合病院における研修の予定です。

10. サブスペシャリティ領域との連続性について

当プログラム基幹施設である魚沼基幹病院には脊椎・脊髄外科(脊椎脊髄外科指導医 2 名)、関節外科、スポーツ整形外科(日本体育協会認定スポーツドクター 1 名)、外傷、手の外科(手外科専門医 1 名)、腫瘍(認定骨軟部腫瘍医 1 名)リハビリテーション(日本整形外科運動器リハビリテーション医 1 名)などのサブスペシャリティを持つ医師が勤務しています。また、連携施設には骨軟部腫瘍、小児整形、肩関節外科、足の外科、リウマチ、骨代謝などのサブスペシャリティを持つ医師が勤務しています。専攻医が希望する場合には、将来のサブスペシャリティを見据えて、研修期間の後半に専門的な研修を受けることが可能です。

11. 研修の休止・中断・プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は、合計 6 か月以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書、妊娠・出産の場合はそれぞれ証明するものの提出が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間を研修期間に組み入れることはできません。また、研修の休止期間が 6 か月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年延期になる場合があります。専門研修プログラムの移動には、移動前・後のプログラム統括責任者及び研修委員会の同意が必要です。

12. 専門研修プログラムを支える体制

1) 基幹病院の体制

基幹施設である魚沼基幹病院は、平成30年から臨床研修医の採用を開始し、年々実績を上げています。また、病院として医療安全、感染予防、情報セキュリティー、医療の質改善などに積極的に取り組んでおり、医師向けの多くの研修会が開催されています。さらに、専攻医に対して研修のみでなく生活面でのサポートが充実しています。臨床面では地域の基幹病院として各科専門医を揃え、最新医療機器を整備し、高いレベルの治療が可能です。そして今後も指導管理責任者を中心に、研修プログラムの問題点を評価し改善を継続していきます。

2) 労働環境、労働安全、勤務条件

- ① 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ② 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ③ 過剰な時間外勤務を命じないようにします。

具体的な労働環境、労働安全、勤務条件等は各施設の病院規定によりますが、年間で年次休暇 5 日以上が保証されています。

3) 専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括(副)責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

魚沼基幹病院に専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。年2回程度の定期委員会を開催し、最終年度の 12 月に専攻医 4 年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。

専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、各研修連携施設および専攻医に報告します。活動報告および研修プログラムは、ホームページで公開します。

4) 専門研修プログラムの改善

- ① 1 年ごとに専攻医による各指導医ならびにプログラム全体の評価を行います。
- ② この評価は無記名で行い、各専攻医に不利益が生じないようにします。
- ③ この専攻医による評価を元に、年一回プログラムの改善について専門研修プログラム管理委員会による検討を行い次年度の研修の改善を実施します。

13. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

1) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

原則として、日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムを用いて、整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と、指導医評価及び症例登録を web 入力で行います。

2) 人間性などの評価の方法

指導医は研修カリキュラム「医師の法的義務と職業倫理」の項で、医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表を用いて、入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。

3) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した以下を用います(日本整形外科学会ホームページ参照)。

- ①整形外科専攻医研修マニュアル
- ②整形外科指導医マニュアル
- ③専攻医取得単位報告書
- ④専攻医評価表
- ⑤指導医評価表
- ⑥カリキュラム成績表

14. 専攻医の採用と修了

1) プログラムに関する予定

- ・専攻医採用試験: 毎年度 9 月から

2) 申込に必要な書類

- ①魚沼基幹病院 整形外科専門研修プログラム応募申込書
- ②履歴書
- ③医師免許のコピー
- ④初期臨床研修終了見込み証明書

3) 「魚沼基幹病院 整形外科専門研修プログラム応募申込書」の入手方法

魚沼基幹病院ホームページからダウンロード

<https://www.uonuma-kan-hospital.jp/training/program>

4) 申込書類の提出先

- ・〒949-7302 南魚沼市浦佐4132番地
- 魚沼基幹病院 事務部総務課 教育研修推進係
- 整形外科専門研修プログラム担当者 宛

5) 採用試験の内容

面接

6) 試験結果の通知

受験者へ、各人毎に連絡します。

7) 追加募集について

専攻医の応募状況によっては、追加募集を行います。

8) 詳細についての問い合わせ先(病院見学の申し込み先)

- ・全ての情報は魚沼基幹病院ホームページに掲載します。
- ・不明な点があれば、以下にお問合せください。

①E-mail: ukb-kenshu@ncmi.or.jp

②TEL: 025-777-3200 FAX: 025-777-2811

魚沼基幹病院 事務部総務課 教育研修推進係 星野真美子

③専門研修の内容について

魚沼基幹病院 副病院長 兼 整形外科部長
生越 章

9)修了要件

- ①各修得すべき領域分野に求められている必要単位をすべて満たしていること。
- ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- ③臨床医として十分な適性が備わっていること。
- ④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより 30 単位を修得していること。
- ⑤1 回以上の学会発表を行い、また筆頭演者として 1 編以上の論文があること。

以上 ①～⑤の修了認定基準をもとに、専門研修最終年度の 12 月に、研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。